

# 東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会記録

平成30年11月5日(月)午前9時59分～午前10時15分(9階908会議室)

## ○出席委員(11名)

委員長	高木 克尚	副委員長	尾形 武
委員	沢井 和宏	委員	二階堂 武文
委員	鈴木 正実	委員	根本 雅昭
委員	小松 良行	委員	村山 国子
委員	小野 京子	委員	山岸 清
委員	渡辺 敏彦		

## ○欠席委員(なし)

## ○議題

- 1 意見交換会について
- 2 その他

---

午前9時59分 開 議

(高木克尚委員長) おはようございます。ただいまから東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を開会いたします。

議題は、お手元に配付の印刷物のとおりです。

まず、意見交換会についてを議題といたします。

まず、前回の委員会後、正副委員長手元で成蹊高校側と協議をいたしましたので、その内容について概略お伝えをいたします。

まず、成蹊高校側として正式に学校内部でさまざまな調整で動くために、福島市議会から学校側へ正式な依頼文を遅くとも年内に、できれば12月冒頭にはいただきたいと、こういうご要請がございました。

予定されている当日の時間帯についてであります。午前中は部活がやはり入っておることから、午後のほうが都合がよろしいと、こういう成蹊高校側の意向でございます。おおむね時間は2時間程度をお願いしたいと、こういうご要望がありました。

それから、テーマについてであります。今の子供たちは復興五輪と言ってもすぐぴんこないという、感謝すべき支援を考える以前の問題として、どのような被害があったかという認識もちょっと

薄いのではないか、その場になって、あるいは近くなって復興五輪、感謝すべき支援という話をされても逆に意見が出にくくなってしまいう想定もありますと、こういった成蹊高校側の校長先生のお話を頂戴しました。

以上が主な打ち合わせの内容なのですが、成蹊高校との打ち合わせを踏まえて運営要領案を変更しておりますので、ごらんいただきたいと思います。意見交換会運営要領案。まず、網かけの部分の1、2、3ございます。1つ目の主催を福島市議会と明記をさせていただきました。

それから2つ目に、共催として福島市と学校法人成蹊学園を記載させていただきました。共催とする理由なのでありますが、まず福島市と入れたものは、オリンピック・パラリンピックの公認プログラムを申請する際に会場の関連自治体である福島市が主催もしくは共催のイベントでないと公認プログラムにならないという基本原則があるものですから、ここは福島市に共催として名前を連ねていただくと、こういう理由です。それから、成蹊学園も共催として表記をさせていただく理由は、会場となる校舎も提供いただく、それから生徒の募集をしていただく、本来土曜という休日である当日の対応も学校関係者にさせていただく、相応の負担をしていただくこととなりますので、立場を明確にするために成蹊学園を共催と、こういう表記をさせていただくことに相なりましたので、ご了解をいただきたいと思います。

3つ目の日時ですが、先ほど成蹊高校側からの時間の要望等を組み込んで、日時を平成31年3月23日土曜日午後1時半と明記を追加させていただきました。これが運営要領の追加の部分でございます。

それから、テーマについては後ほど協議をさせていただきますが、傍聴について追加をさせていただきました。要領の2ページ目、8番、傍聴についてを追加させていただきました。成蹊高校という会場の条件を踏まえますと、成蹊高校側と協議の上決定をするということになります。当日混乱を避けるために傍聴は参加者の皆さんの保護者の方々、関係者のみということも想定されますので、傍聴についてもこの運営要領案に盛り込ませていただきました。

それから、当日の進め方、11番、これは暫定で記載をさせていただきましたので、これが決定ではございませんが、以上が今回の運営要領等に関する変更点です。

1の主催、2の共催について、まず成蹊高校にどのような立場でかかわってもらいかどうかで依頼の仕方が異なってまいりますので、正式な依頼文を送付するために委員会として決定をしておかなければならないものであります。正副委員長としましては、会場の提供から参加者の募集、当日の対応まで幅広くご協力いただくため、共催の依頼をしたいと思います。

また、この意見交換会をより効果的にPRをして、機運醸成にも役立てるためには、組織委員会への公認プログラムの申請をしたいと思っております。そのために必要な条件として、福島市が主催もしくは共催である必要があるために、福島市の共催の依頼をしたいと思います。

なお、福島市議会としては他の組織との共催で事業を行うということは初めてであります。他の組織に共催の依頼を行うとなると、議長名で行わなければなりません。そのために、今ご説明した2つ

の共催依頼について委員の皆様にご了解をいただければ、正副委員長として議長へ共催依頼を出していただくよう申し入れを行いたいと思いますが、そのようにさせていただいてよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) それでは、共催依頼の申し入れを議長に行わせていただきます。

次に、傍聴についてですが、正副委員長といたしましては、先ほど申し上げましたように、参加者の関係者のみにしたいと考えております。委員会条例で会議は公開とされております。参加者の保護者あるいは関係者の傍聴も想定をされる、会場の管理面も考えますと、無制限に一般に傍聴者を入れるということは困難でありますので、円滑な運営のために関係者のみとしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) ただ、我々の福島市議会の委員会でありますから、委員外委員の傍聴も当然考えられます。委員外委員の傍聴は認めたいと思いますが、先ほど来申し上げましたように他人の土地に入って、他人の建物に入って、そこで傍聴するという関係から、通常ですと自由に委員外委員の入室は可能なのですが、今回に限っては事前に委員外委員の申し入れは必要だということで周知をしたいと思いますが、ぜひ各会派で聞いてみたいという方がもしいらっしゃったとすれば、事前に申し入れしてねということをつけ加えていただければ幸いです。

では、傍聴についてはそのようにさせていただきます。

次に、目的に記載しておりますテーマについてであります。前回の委員会で皆様にご協議いただいたテーマで、第1部が共通テーマとして2020年までに何ができるかという議論をして、第2部で各グループで第1部で出た意見をもとにテーマを絞り込んで、2020年以降どうなってほしいかという議論をするというふうに時系列を意識した構成の案とさせていただきました。

お手元にA4の横書き、資料1配付させていただきましたが、現時点での意見交換のイメージを簡単にまとめたシートにさせていただきました。テーマ自体あるいはその細かい内容については今後も検討していかなければなりません。修正しながら本番までに固めていくということになりますが、大きな流れとしてこの案のようにしたいと思っておりますが、皆さんからご意見をいただきたいと存じます。

タイトル、これが確定ではございませんので、参考のキャッチフレーズにさせていただければと思います。1部、2部の構成、それから沢井委員から出たように事前に子供たち、学校関係者にイメージを持ってもらうための資料1のような事前資料の配付とか、こういったことで進めさせていただきたいと思いますが、皆さんからご意見があればお伺いしたいと思います。

(鈴木正実委員) 第2部の2つ目の、アバウトなテーマなんでしょうけれども、2030って、この30の意味合いというのは何。10年後何か想定するとか、そういう意味合いなのですか。

(高木克尚委員長) 紛らわしいね、これ。

(鈴木正実委員) 10年区切りのスパンにすることかな。

(高木克尚委員長) そこら辺のことというイメージがあったもので。10年後福島の未来とかいいもしれないね。

(鈴木正実委員) 10年後に絞るということだけでなく、福島の未来についての君たちの意見は何というような感じのほうがより言いやすいというか。

(小松良行委員) 何も福島の未来でいいと思う。

(村山国子委員) なくてもよさそうな感じがしますね。

(高木克尚委員長) これきょう固定でございませんで、次回までそれぞれアイデアもう一度お持ち寄りいただければ助かります。キャッチフレーズ込みでぜひ考えてみていただけますか。これに限らず、こういうキャッチコピーでどうですかとか。ただ、イメージ的にはこんな感じかなと。

前回の協議も踏まえて、これまでの第1部、これからの第2部という組み立てでテーマをこれから固めていくということよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、その方向でテーマについてはさせていただきたいと思います。

次に、その他ですが、次回委員会の日程をお諮りしたいと思いますので、手帳をお開きください。

今月の末です。11月28日水曜日いかがでしょうか。28日でよろしければ午前からやりたいのですが、午前がだめなのね。

(小松良行委員) だめだな。

(高木克尚委員長) 29日の午前中どうでしょう。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、11月29日木曜日午前10時から次回を予定させていただきます。

それから、今後の委員会なのですが、意見交換会以外の調査についても委員長報告に向けたまとめを徐々に行っていかなければならないと考えておるわけです。そのために次回は、ことしの4月の視察の中で七尾市に行きましたね。スポーツ合宿誘致の取り組みを見てきましたが、これについてどう委員長報告に反映して提言をまとめるか、議論がまだ残っております。つきましては、次回委員会では七尾市に行ったときの視察の資料も忘れずにお持ちいただければと思うのです。

お願いばかりで申しわけありませんが、そろそろ年末に近づいておりますので、来年度の手帳もご購入いただいて、来年の予定も皆さん協議を深めてまいりたいと思いますので、次回からは来年度の手帳もお持ちいただければ幸いです。

正副委員長からは以上となりますが、そのほか委員の皆さんから何かございましたらご発言をお願いします。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) それでは、以上で東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を終了

いたします。ご苦労さまでした。

午前10時15分 散 会

東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員長

高木 克尚